



自主防災会総会が開催され、懸案の規約改正・防災計画が決定！

町会関係各組織代表者等が加わり、第2回拡大役員会と同時に開催される

去る6月22日(日) 集会所において第2回拡大役員会が開催され、その後、自主防災会総会に移り、規約改正・防災計画・組織編成の各提案が審議され、全会一致で承認されました。

[拡大役員会について]

今回の拡大役員会では、町会役員と班長のほか町会関係各組織代表者等の11名が加わり、出席予定者35名のうち32名が出席して、町会が当面する問題点と対応策13項目について報告されたあと、熱心な意見交換が行われました。

報告があった主な事項は次のとおりです。

1. 集会所改築プロジェクト進捗状況と今後の計画行程
2. ちさか地域安全パトロール隊の現状と問題点
3. 金信森本支店付近交差点信号機の設置要望、金市町交差点道路舗装改修要望
4. 児童公園でのゴルフ練習問題
5. 千坂分団消防会館建設事業資金の一部町会負担金(1世帯あたり2,000円)について
6. 盆踊り大会開催予定日(8月23日)決定について
7. オウム真理教に関する請願書の署名について

これらの報告のあと、各問題点に対する意見交換が行われました。

主な意見

消防会館町会負担金について

- ・消防会館建設事業資金の一部町会負担金は、総事業費の内訳について、その説明責任義務が果たされていない
- ・年金生活者にとっては負担が重いと考えられ、全員が完納することは困難と推定される
- ・拠出した者は、拠出しない者に対し不公平感を持つことになり、町会の連帯感が損なわれる
- ・以上を斟酌すれば、町会予備費を取り崩し一括納入(255世帯×2千円=51万円)が望ましい

町会はこれらの意見を踏まえ、町連から協力要請文書が到着次第、役員会で対応策を検討することとしました。

[自主防災会総会について]

自主防災会は阪神淡路大地震の被災状況にかんがみ、防災体制の強化の必要性が叫ばれたのに伴い、各地域に自主防災会設立の機運が高まり、当町会においても平成9年4月1日に設立施行され10年を経過しましたが、防災計画の策定には至っていませんでした。

それ以降、幸運にも当地域には災害は発生しませんでした。昨年の能登半島地震、中越沖地震、そして6月14日岩手・宮城内陸地震が発生しました。

このことから、京都大学総長尾池和夫氏講演の「動く大地」認識せよ、の参考資料や、森本・富樫活断層帯に位置する荒屋団地地域として、1日も早く防災計画を整備する必要性の説明があったあと、規約改正案、自主防災計画案、自主防災組織編成案の各提案と審議が行われました。

主な意見

- ・自主防災会の予算が全く計上されていない
- ・能登半島地震では、高齢者住宅の位置が防災マップに明示され、それが非常に役立ったと聞く。当町会でも作成してはどうか
- ・被災を想定した場合、緊急に救助を要する局面では、障害物の撤去、負傷者の応急処置等を要することになるが、これを円滑に行うため、町会地域内に居住の医師・看護師・電気技術者・各種機械オペレータ等を調査し登録しておくことを提案する
- ・役員一覧表と編成表が一致していない

以上に対する答弁

- ・予算は町会総会の承認が必要、今後必要な資機材を検討して来年度町会予算措置を要請したい
- ・高齢者住宅マップの作成提案を受け、早急に作成着手することとしたい。個人情報にかかわる問題があるが、班長が所持する方向で検討したい
- ・救助に必要となる特殊技術・技能等の保有者登録については、別途、諸資格保持者の調査を行うこととしたい
- ・役員一覧表の誤記は早急に訂正版を作成する
- ・千坂地区で8月24日防災訓練が実施される。今回は災害が発生したと想定し、各町会毎に避難・誘導・消火・救助・食料炊飯配付等の総合訓練が実施されるので協力をお願いしたい

2. 日本赤十字社の事業活動資金のご協力ありがとうございました

日本赤十字社の事業活動資金のご協力について、5月20日締切の結果、皆様のご理解を賜り231件148,010円のご協力があり、公民館を通じて納入したところ、今月上旬、日本赤十字社石川県支部長谷本正憲氏から感謝の旨の書状が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

3. 世代間交流行事「餅つき大会」で、子どもからお年寄りまで楽しい集い 雨天を吹き飛ばす大盛会となり、ご支援・ご協力の皆様に感謝を申し上げます



去る5月25日、町会として初めて実施した世代間交流行事「餅つき大会」は、雨のため児童公園から急遽会場を変更して高林邸ガレージで開催されました。

足下の悪い日にも関わらず、幼児からお年寄りまで約170人の大勢の参加者があり、会場は笑顔に満ち満ちて、餅つきを体験したり搗きたての餅の食感を味わいました。

「日本古来の餅つき文化を再現！」のキャッチフレーズどおり、かまど、釜、せいろ

4段をセットして薪を焚いて蒸す作業を開始、やがて、立派な樺の臼で餅つきを始めました。

幼児から学童たちは、興味津々、次々と「やってみたい」と順番を待つほど大好評でした。

ガレージ隣の空き地に設置したテントの中では、つきたての餅を食べながら歓談する笑顔で満ちていました。この日のために企画、用具類の調達、食材の調達、会場設営、材料運搬等々に大勢の皆さんからご協力を賜りました。皆さんに心から感謝申し上げます。

また、会場を快くお貸ししていただきました高林さんにも心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

4 . 町会対抗の第 30 回ソフトボール大会、第 14 回グラウンドゴルフ大会の各大会で善戦！

千坂校下町会対抗各種競技が目白押しとなり、去る 5 月 18 日ソフトボール大会、6 月 1 日グラウンドゴルフ大会が開催されました。

[第 30 回町会対抗ソフトボール大会]

町会対抗競技の幕開けとなったソフトボール大会は、最高の天候に恵まれた北部公園ソフトボール場において 19 チームが参加して熱戦が繰り広げられました。

最強のチーム編成ができた吾がチームは、1 回戦千木第二と対戦。

初回先攻無得点のその裏、凶らずも 5 失点しましたが、3 回に 4 点を入れ 5 回に 3 点追加して逆転成功。しかし最終回、2 点失点のため同点で終了したので、昨年同様またもジャンケンで勝敗を争うことになり、残念ながら敗退してしまいました。

選手の皆さん、応援の皆さん、お疲れ様でした。

[第 14 回町会対抗グラウンドゴルフ大会]

6 月 1 日、北部公園で開催された標記グラウンドゴルフ大会は、朝から雲一つない快晴の空のもと、各町会から選りすぐりの選手約 200 名が参加して熱戦が繰り広げられました。

当町会からは、3 チーム 12 名の選手が「荒屋団地町会代表」の重責を担いながらも、澁刺と楽しみながらプレーをしました。

昨年の成績優秀者により編成した A チームは、昨年好成績を残した弥村、松田両選手が日頃の手腕を発揮できなかったため、善戦した B チームと同得点にとどまったことが心残りとなりました。

それでも表彰式では梨野選手 5 位入賞、女子の部では谷選手 3 位入賞、そのほか高島、中塚、打林の各選手の皆さんがラッキー賞等を受賞され、参加者全員からの盛んな拍手を浴びました。

選手の皆さんのご健闘を讃え、応援の皆さんに感謝申し上げます。

なお、第 44 回町会対抗バレーボール大会が 7 月 6 日森本市民体育館で開催されます。当町会では、本大会は平成 13 年以降の参加が途絶し、7 年連続不参加の不名誉な汚名を晴らすため、今回は下島青年部長に檄を飛ばし部長奔走の結果、11 名の選手を確保し参加申込み手続きを終えた旨の報告がありました。

選手の皆さんのご健闘を期待します。

5 . 金市町交差点道路舗装改修、金信付近横断歩道信号機設置の各要望について

[金市町交差点道路舗装改修要望について]

国道 8 号線福久南交差点から国道 159 号線を結節する市道は、山側環状道路が開通以降、当該市道の交通量が増大し、特に重量物を積載した大型車両が昼夜を問わず通行するようになりました。

これに伴い、舗装の損傷が著しく進行し、沿道家屋では振動が激しく発生しており、また、金市町交差点では横断水路との段差が発生し、付近住民からその家屋振動が原因で、睡眠不足改善のために服用した睡眠薬により肝機能障害が発症したので、行政に改善措置をしてほしいと悲痛な訴えがありました。

このため町会として現地調査を行った結果、行政に対して速やかに改善措置を行うよう要望する必要を認め、去る 6 月 9 日、田中展郎市議と同伴して道路保全課に出向き、標記の要望書を提出しました。

その結果、行政との現地立ち合いを経て、来年度本格的な改修工事を施工することとして、とりあえず応急的に交差点の段差補修工事を実施することが決定されました。

本工事施工の案内を回覧したところですが、7 月 1 日から実施することを施工業者から連絡がありま

したのでご周知ください。

[金信森本支店付近交差点の信号機設置要望について]

当該箇所の横断歩道は見通しが悪いため、学童登下校の事故防止を目的とした信号機設置の要望が地域安全パトロール隊々員等から町会に寄せられていたことから、荒屋町会長と協議して千坂校下町会連合会長を經由し、金沢東警察署長あて要望書を提出することとなりました。こうした信号機設置の要望は、東警察署に毎年 20～30 件提出されているものの、予算上から 2 件程度にとどまっており実現は極めて厳しいとの観測がありますが、町会は実現に向け最大限の努力を傾注して行きたいと考えています。

6 . 各種ボランティアスタッフの研修実施状況等について

地域に貢献するボランティア活動に積極的に参加しましょう

荒屋団地地域では、悠々サロンが発足して今年 9 月に 2 周年を迎えます。

発足以来、土居本代表をはじめボランティアスタッフの皆さんのご尽力により毎回好評を重ねて、今月で 16 回を数えました。

そのボランティアスタッフの慰労と相互の交流促進を兼ねながら、悠々サロンのさらなる発展向上を図るため、6 月 8 日（日）金沢市に申請した研修バス「マナビー号」を利用して参加者 27 名により、研修旅行が開催されました。

目的地は、能登半島地震で最も被害が大きかった門前地区の現状視察と、能登地方の祭りの主役「キリコ」を展示したキリコ会館やイナチュウ美術館の見学でした。

また、6 月 27 日（金）千坂地区社会福祉協議会が主宰したボランティア研修旅行が開催され、参加者 53 名のうち当町会関係者 11 名が参加し、石川県立総合養護学校の視察や羽咋市の永光寺などを巡りました。

町会は、助け合い・支え合いのある地域を構築するため、諸施策を強力に展開しているところですが、このような研修参加により、地域コミュニティ促進にも大きな効果がもたらされました。

社会福祉の充実は、皆さんのご支援を欠くことができません。こうした事情をご賢察され、各種ボランティア活動に積極的に参加されますようお願いいたします。

7 . 荒屋団地ネットサークル会員の加入促進について

情報化時代の生活文化の向上と防災・防犯ネットワーク拡充のために

町会は、パソコン講習会終了と同時に立ち上げた、荒屋団地ネットサークルが 2 周年を迎え、情報化時代の流れに対応しながら会員相互のコミュニティ強化を図っているところですが、先に回覧したさわやか安全メール登録による速やかな防犯情報の入手や、自主防災会での情報収集伝達機能を充実させるため、一人でも多くの会員加入を必要としています。

会員加入はメールアドレスを事務局（中屋・257-6691・13 班）にご連絡していただければ、即時加入手続きをいたしますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

なお、定例会の参加は強制的なものではありませんので申し添えいたします。

8 . ごみの出し方等について

東部管理センターから、南小公園の生ごみの出し方について、次のとおり注意がありました。

- ・生ごみがネット上に置いてあるため、カラスによる散乱が何度も発生している
- ・生ごみの集積が回収車の積み込み場所から遠くなっているため、なるべく道路側に集積すること以上について、皆さんのご協力をお願いします。

また、1 週間前にふとんが出されました。この持ち込み情報を収集中ですのでご連絡をお願いします。

第379回 京都大学・尾池和夫総長

「動く大地」認識せよ

第379回中日懇話会（中日新聞社主宰）が20日、名古屋市中区のホテルグランコート名古屋で開かれ、京都大の尾池和夫総長が「迫り来る地震と、その備え」と題して講演した。尾池総長は「日本の大地はよく動く。私たちは動く大地に住んでいることを認識しなければならない」と将来的に起こり得る地震への備えの必要性を強調した。

講演要旨は次の通り。

【動く日本列島】

日本列島はぐらぐらいつも動いている。動き回る大地は浸食作用で豊かな堆積（たいせき）層が発達し、その中に亀裂が走ったり、マグマが出てきたり火山が噴火したりする。

扇状地など「動く大地」がつくり出した景色は、日本や中国、韓国などでよく見られる。ギネスブックでは、大きな災害は日本、中国など東アジアが占めている。

大地の上下運動で、下がったところに厚い堆積層ができて盆地や平野が発達する。そこには活断層も発達している。そういうところに人が集まってくる。私たちは動く大地に住んでいるという認識を持つことが大切だ。

【地球の動きと地震の起こり方】

陸を乗せたプレートと呼ばれる十数枚の板が水平に移動するプレート運動がある。そのプレートが集まる場所が東アジアや南米など。特に東アジアはプレートが集まり、大きな地震が起こるという特徴がある。そこに日本列島もある。一方で、日本列島には100カ所ほどの活火山がある。この下にプレートが沈み込んで入っていると思っていただけがいい。そういう国だから、日本を代表する自然は火山の噴火と大地震と大津波だと私は思っている。

日本の大地は変動帯。空のことは気象庁が情報を集めるが、地表から100キロ下の情報を伝える地震火山庁をつくるべきではないだろうか。

【大地震発生の可能性】

歴史的な地震の統計からは、パターンが出てくる。これが大事なことで、統計モデルを作ってみると今実際に起きている地震から次の南海地震が起きる時期を予測すると2040年ぐらいになる。次、南海トラフが動くのは2030 - 40年ぐらいじゃないかと思う。

内陸の地震については、長い間、活断層が動いてなくて中小規模の地震が起きているところは、やがて大きな地震が起こり得るわけで、注意が必要だ。



中日懇話会で講演する尾池和夫京都大学総長 = 20日、名古屋市内のホテルで